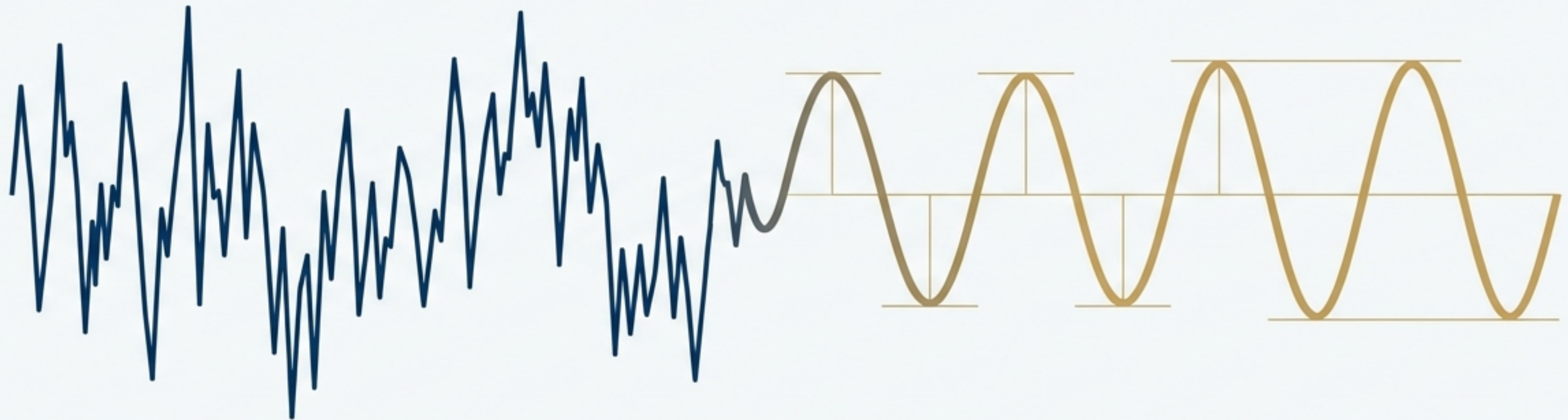


スイングハイ・スイングロー： 相場の「DNA」を解読する

大口投資家の「足跡」を辿り、騙しを回避する唯一のルール



「どこが本当の高値 なんだろう？」

チャートを見ていると、無数のローソク足に翻弄されませんか？

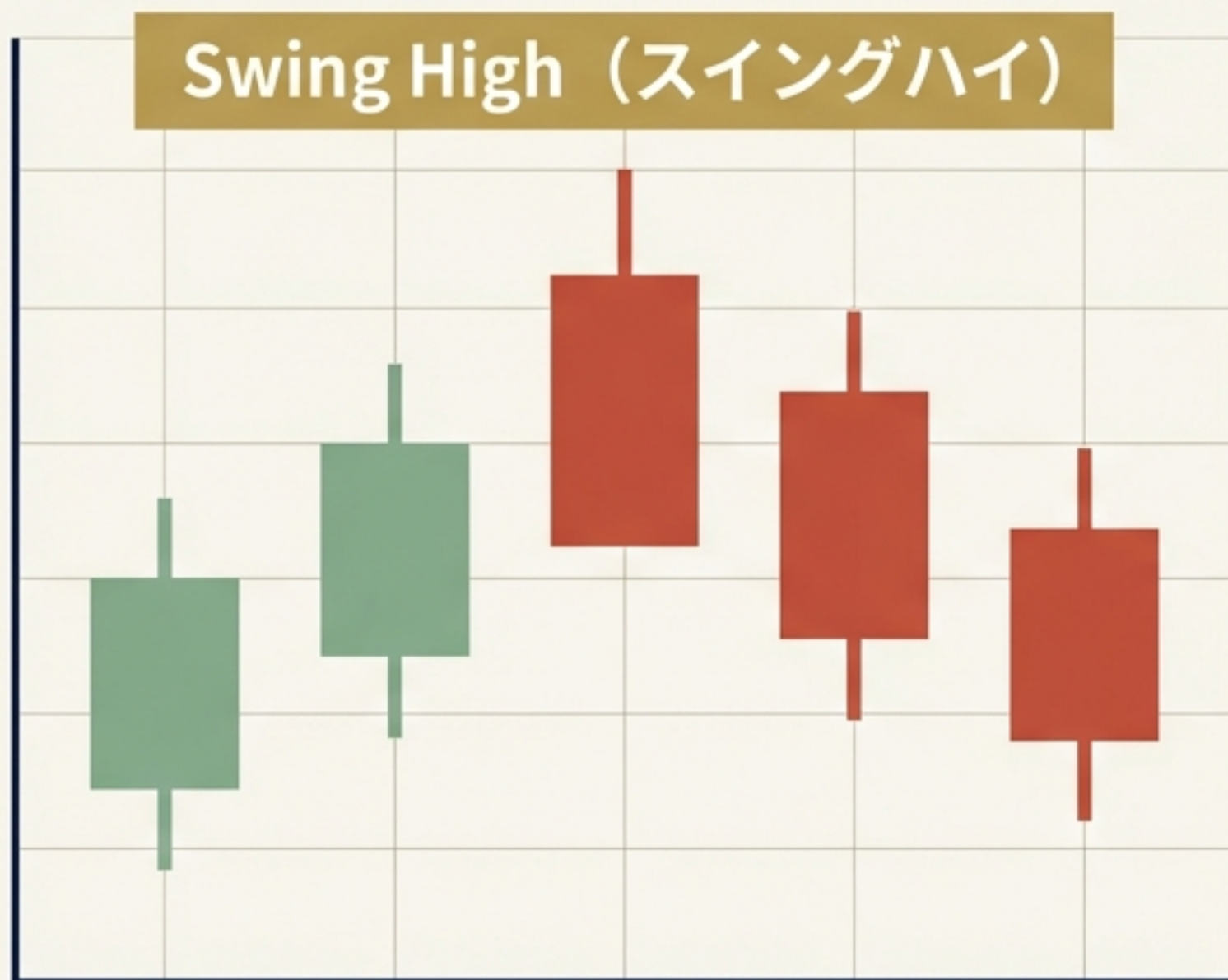
- ✓ 「意識していた安値なのに、あっさり騙された（泣）」
- ✓ 「トレンドラインが機能しない」

実は、相場はランダムに動いているように見えて、明確な「波」と「節目」を描きながら進んでいます。その正体こそが**スイングハイ・スイングロー**です。



SCHEMATIC CHART: MARKET NOISE & FALSE HIGHS

スイングハイ・スイングローの定義



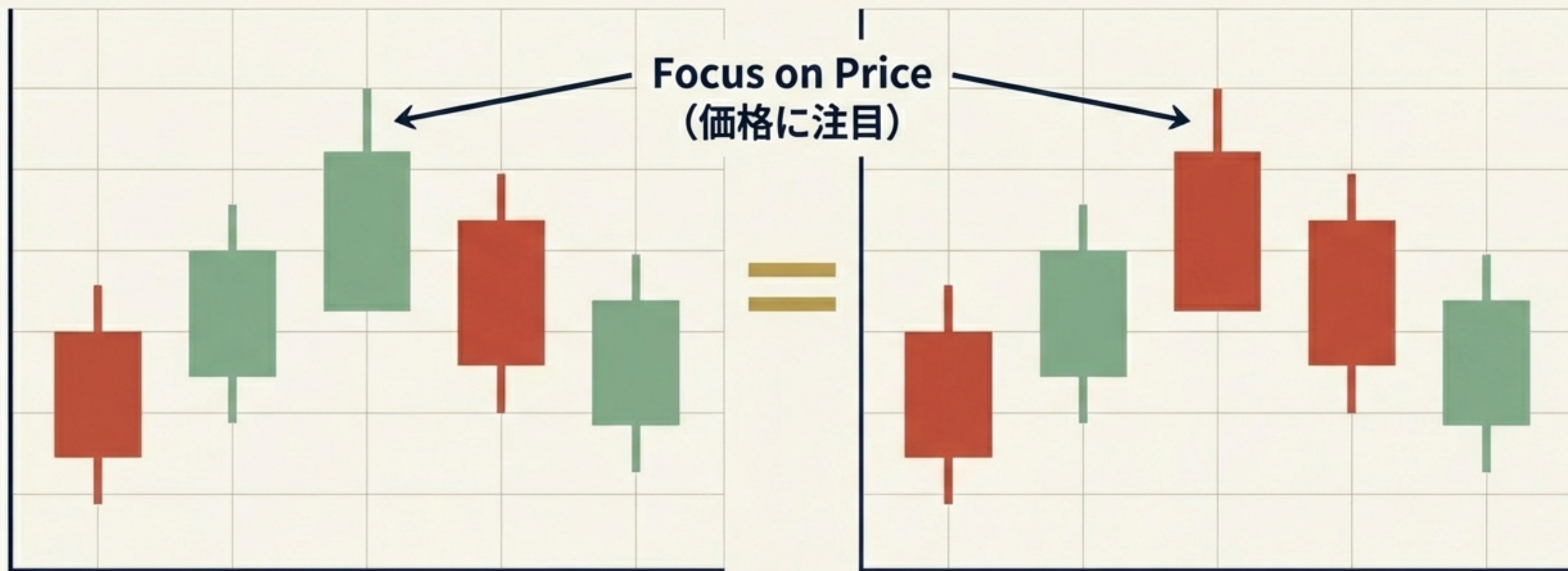
周りのローソク足と比べて、一番高くなった高値。



周りのローソク足と比べて、一番低くなった安値。

非常にシンプルですが、これがすべての基準になります。

超重要：陽線か陰線かは一切関係ない



見るべきなのは「価格」そのものです。ローソク足の色や形に惑わされてはいけません。色を無視して「高値・安値」の事実だけを見ることで、相場全体の構造が浮かび上がってきます。

スイングは「大口投資家の足跡」である

なぜスイングが機能するのか？それは、
これらが銀行・機関投資家・ヘッジファン
ドによって作られた価格だからです。

大口投資家は、一度にすべての注文を通す
ことができません。ある価格帯で少しずつ
仕込み (Accumulation)、その結果として
チャートに明確な高値・安値が刻まれま
す。

つまり、スイングハイ・スイングローは、
大口がそこにいたという証拠なのです。



スイングと損切りの深い関係

スイングハイ・スイングローの周辺には、市場参加者の損切り注文（Stop Loss）が大量に溜まっています。

例えば下降トレンドなら、売り手（大口+個人）の損切り注文は「直近のスイングハイの上」に置かれます。



ブレイクで価格が走るメカニズム

スイングハイを明確に上抜けた瞬間、何が起きるのでしょうか？

1. 売り手の損切り（＝買い注文）が発動
2. 新規の買い注文が殺到

これが一気に重なるため、ドカンと大きな陽線が出やすくなります。これは偶然ではなく、注文構造をとして当たり前前の動きなのです。



トレンド転換のシグナル

トレンド転換は、最後に作られたスイングのブレイクをきっかけに起こります。

この構造が崩れた時こそ、相場の主導権が入れ替わるタイミングです。

Trend Reversal Structure



反転は一瞬ではない：3つのステップ

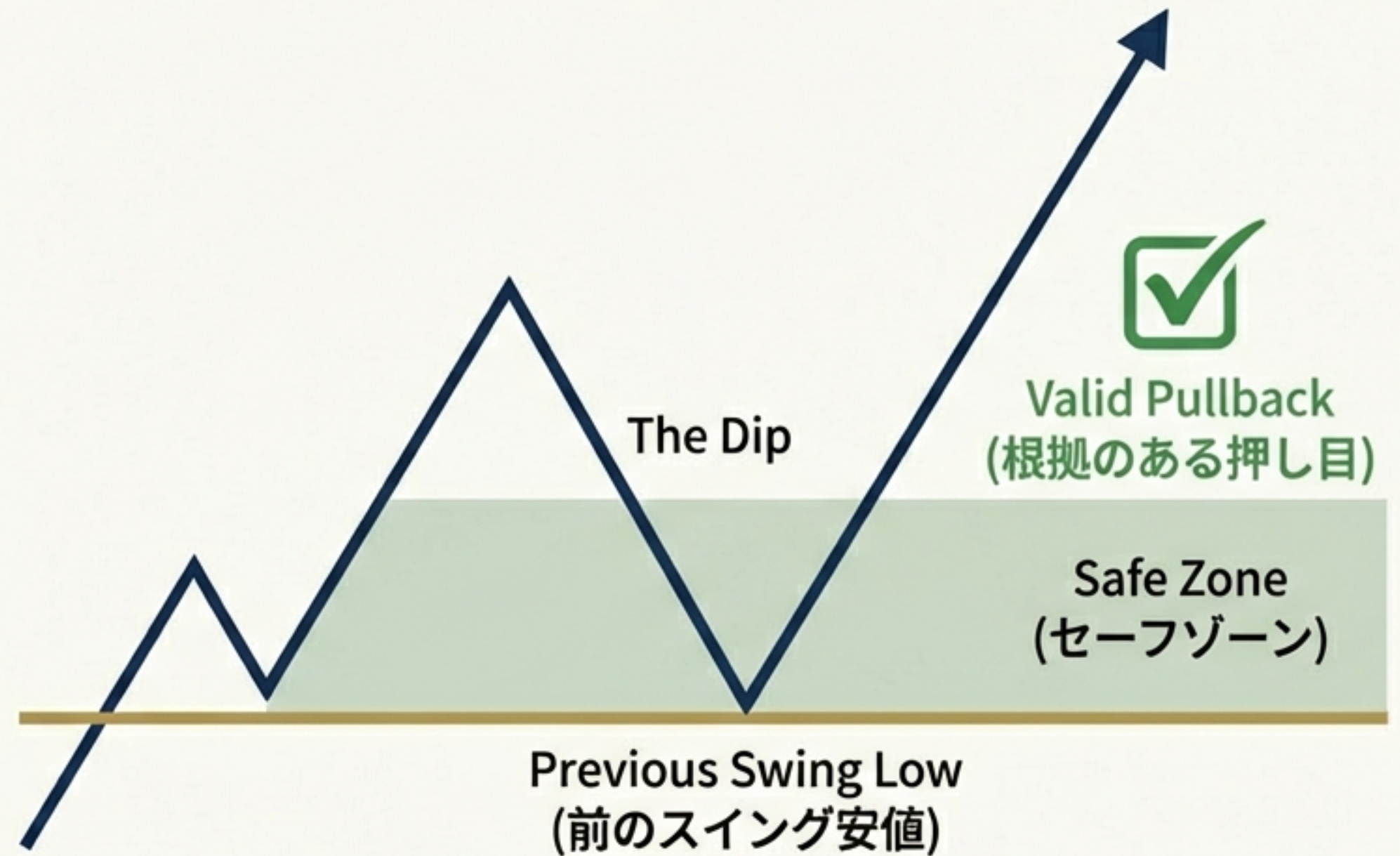
「ブレイクしたら即反転！」と単純に考えてはいけません。流れはじわじわと変わります。



なぜ「押し目・戻り」が機能するのか？

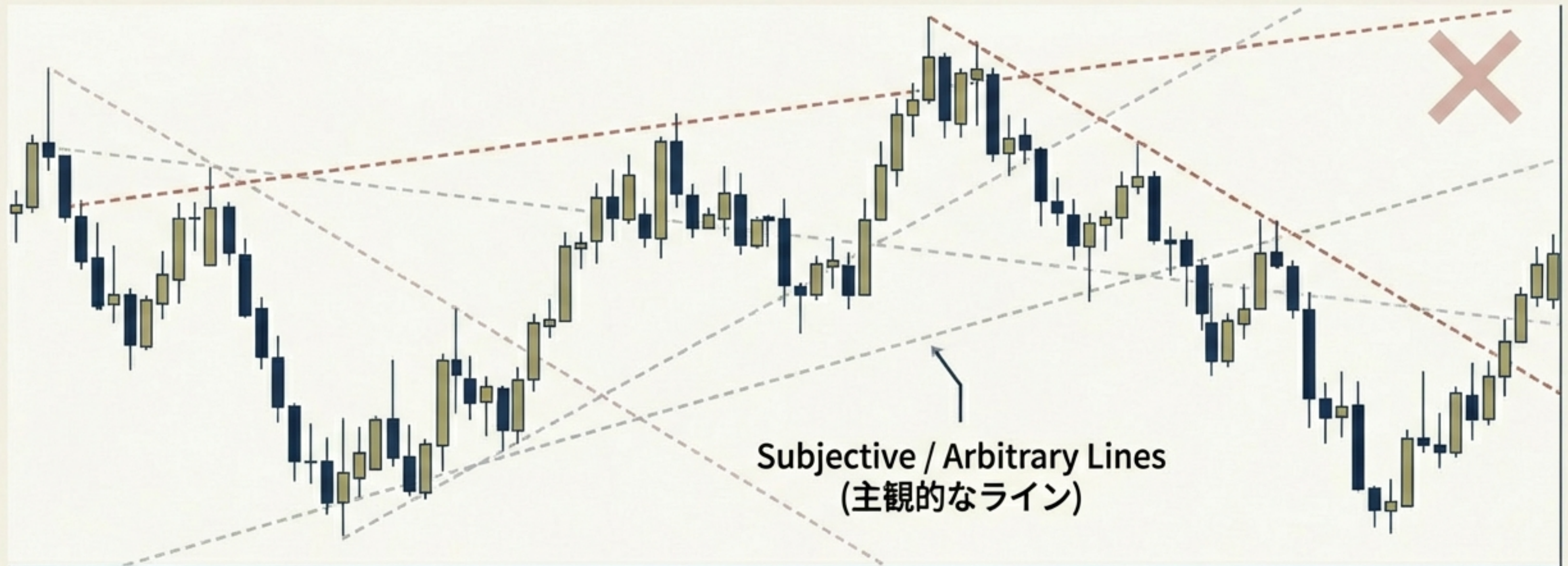
ブレイク後の「押し目 (Dip)」や「戻り (Rally)」は、新規勢が様子を見たり、一部が逃げたりする時間です。

重要なのは、その動きが**スイング構造を壊さない範囲**であること。スイングが守られている限り、それは「根拠のある押し目」となり、再びトレンド方向へ動き出します。



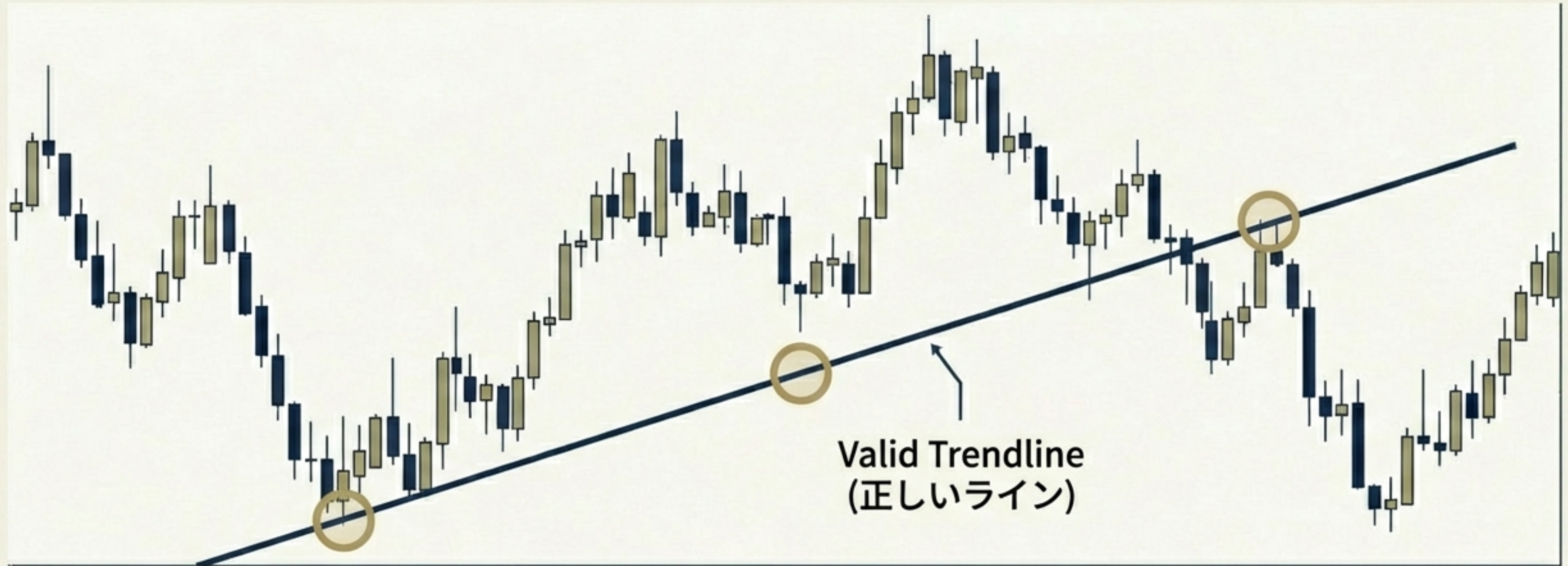
トレンドラインで騙される本当の理由

「引いたラインが機能しない」とお悩みの方へ。原因の多くは、市場が注目していない高値・安値を無理やり繋いでいるからです。基準が曖昧だと、ラインは機能しません。



正しいラインは「スイング」を結ぶ

スイングハイ・スイングローだけを基準にラインを引いてみてください。ルール：「最低でも複数のスイングを通過しているか？」 これだけで、騙しに合う頻度は劇的に下がります。



判断基準を「一本の軸」にする

インジケーターを10個も表示させる必要はありません。
スイングハイ・スイングローを軸にすれば、すべてが統一されます。



まとめ：迷いを消すための第一歩

- **相場は波:** その節目がスイングハイ・スイングロー。
- **大口の足跡:** 注文の結果として形成される。
- **すべての根拠:** トレンド転換・押し目・騙しは、すべてスイング構造で説明できる。

まずは、チャートの高値と安値を「スイング」で統一して見ることから始めてみてください。焦らずはコツコツ、目を慣らしていきましょう！

Simple is Best

